



アーキテクト・ガーデン 2017 建築祭 参加プログラム報告

2017.10

アーキテクトガーデン実行委員会

主催：公益社団法人 日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部

■ARCHITECTS GARDEN 2017 参加プログラム

★講演会・シンポジウム

- メインシンポジウム「建築的思考の可能性」
(鈴野浩一氏/トラフ建築設計事務所共同主宰、田島直行氏/代官山 T-SITE 館長、齋藤精一氏/Rhizomatiks 代表取締役/今村創平氏/JIA Magazine 編集長)
主催：アーキテツガーデン実行委員会

- 「人と環境に優しい住まいとは？」
ー 少ないエネルギーでも気持ちよく暮らせる住まい ー
主催：住宅部会

- JIA 杉並土曜学校
ー 建築家の本棚+トークイベント「私の一冊」 ー
主催：杉並地域会

- JIA トーク 2017
「私たちの宗教生活」(住職・加藤精一氏)
主催：JIA トーク実行委員会

- 金曜の会 特別企画 トークイベント
主催：金曜の会

- 「リフォームトラブル」
ー 契約、その前に ー
主催：建築相談委員会

➤ 第7回街かどトーク「百年かかって育てた木は百年使えるものに」

主催：目黒地域会

➤ メンテナンス部会セミナー「マンションの耐震+再生講座」

主催：メンテナンス部会

➤ 「次世代に残そう！これからの住まい」
ー 住まいの価値と魅力を考える ー

主催：住宅部会

➤ アメリカ広葉樹日米建築家懇談会

主催：住宅部会

➤ 保存活用の実例の現場から
①蘇った産業遺産 ②記憶をつなぐ幼稚園

主催：再生部会

➤ 「魅力のある家づくりをめざして」
ー 周辺環境や建主との対話を通して ー

主催：住宅部会

➤ 第25回MASセミナー

主催：港地域会

★展示・ワークショップ

- 第26回東京都学生卒業設計コンクール 主催：学生デザイン実行委員会
- 銀座プロムナード・ギャラリー展示 主催：ミケランジェロ会

★街歩き・見学会

- 電力完全自立のオフグリッド建築を体験しませんか？ 主催：環境委員会
- 地域材フィールドワーク 南佐久中部森林組合 主催：長野地域会
- 沼津・三島をめぐるバスツアー 主催：中野地域会
- 城南散歩「品川の大名屋敷跡を訪ねる」 主催：城南地域会+城南・風景とまちづくりクラブ
- まちあるき 北の丸と千鳥ヶ淵周辺の歴史遺産探索 主催：千代田地域会
- JIA 群馬クラブ「群馬東毛建築見学会」 主催：群馬地域会
- 世田谷の地域風景資産を歩くⅡ 主催：世田谷地域会

ARCHITECTS GARDEN 2017

社会と共にある建築祭月間



開催期間：2017年6月、およびその前後数日

主催：JIA 関東甲信越支部

ARCHITECTS GARDEN 2017では、“建築家の日”6月15日を挟む1か月間、支部全域で、多岐にわたる25のイベントを開催しました。建築家やJIAの多彩な活動・価値を広く社会に対して情報発信することを目的にスタートしたAGも20年に及び、着実に社会、市民に根付き、それが建築文化の普及とJIA・建築家職能の認知に繋がってきていると感じます。

同時に、支部組織再編を受けて、全域でのネットワーク型イベントは存続させるものの、メインイベントは今年度が最後となりました。これまでAGにご尽力、ご協力くださった関係者の皆様、お一方お一方に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

(アーキテツ・ガーデン実行委員長 鈴木利美)

AGメインイベント

2017年7月7日(金)

- 第1部 13:00～15:00 委員会サミット
- 第2部 15:30～18:00 メイン・シンポジウム
- 第3部 18:00～20:30 AGパーティー

2部 メイン・シンポジウム「建築的思考の可能性」

会場：建築家会館本館1階大ホール

パネリスト：鈴木浩一(トラフ建築設計事務所共同主宰)
齋藤精一(ライゾマティクス代表取締役)
田島直行(代官山T-SITE館長
兼CCCデザインカンパニー執行役員)

モデレーター：今村創平(『JIA MAGAZINE』編集長)

Social innovationが進む時代にあって、建築家職能の展開と可能性を探ろうと、建築家だけでなく、他分野で話題の方達をお招きし、異なる分野にも通底する“建築的思考”をキーにプレゼンテーション、ディスカッションをいただいた。

建築にとどまらずさまざまなプロダクトデザインを手掛ける鈴木氏は、「建築ではないモノをつくる時は建築的な発想で切り返すことを楽しんでいるし、建築をつくる時は建築ではない発想からいくこともある。思考を固めないことが大切」と語った。一方、建築分野からメディア・アートに進出した齋藤氏は、自身の経歴とデジタル領域からまちづくりにも関わる作品をプレゼンしながら、「経済効果を優先するデベロッパーとエモーションを優先する建築家とのギャップは大きい。互いの理解と同時に、中間的立場も必要」と指摘。世界一の企画会社を標榜しているというCCCで全国の蔦屋書店の企画に携わる田島氏は、マーケティングの視点から「蔦屋書店は、新しいライフスタイルの情報提供拠点であり、顧客にとっての最大価値は居心地。そして、人が集まってコミュニケー



ションすることに価値がある」と述べる。

その後のディスカッションでは、齋藤氏が「建築家は分野を超えて学べるし、どんなスケールでも扱える。すべての職業と共通言語を持てるのが建築家だ」と建築家職能・建築的思考の幅広い可能性について力強い言葉。田島氏は「クリエイティブなものが価値を持つ世の中になってほしい。それらは、日本が世界をリードできる分野だと考えている」と創造性について言及。それを受けて鈴木氏は「建築は発展や応用が利く分野だけに、閉じないで開いていくことが重要だ」と経験からのアドバイスを述べた。一方で、齋藤氏から「建築家側にもデータに裏付けられた運営の視点からの提案・計画が必要だ」との指摘もあった。

ここで結論が出るテーマではないが、建築家の創造性と多様性には期待があり、また建築的思考が持つ可能性は幅広い。一方で、異なる分野とのギャップを埋めようとする意識、思考領域の拡大がなければ、可能性は活かされない、と。限られた時間ではあったが、移り行く時代において、建築家がいかに思考し何を行っていくのかということに、大きな示唆を得られるシンポジウムとなったのではないだろうか。

詳細は、JIA HPでのビデオ公開、業界紙記事の掲載をご覧ください。



左から、
今村創平氏、
鈴木浩一氏、
鈴木利美実行委員長、
田島直行氏、
齋藤精一氏

1部 委員会サミット

会場：建築家会館本館1階大ホール

この委員会サミットは、委員会再編を「広く意見を聞き深掘りする」きっかけの場として開催されました。

はじめに藤沼傑支部長より委員会再編主旨として赤字体質改善、人材不足対策、事務局負担軽減、活動状況理解の容易化のためと説明がありました。次に、日々多彩な活動を行っている19委員会のうち、13委員会の活動報告が行われました。

その後意見交換では「委員会再編の前に、大変だが事業活動の整理が先決」「経費はそんなに使わず費用対効果が高い活動を皆行っている」等々…また「若手会員の興味対象外からの脱却」「次世代の興味を引くことが必要で恐れず変化が必要」「県域と支部との活動を整理する」という再編へ向けての具体的な意見がありました。

一方、会場からは「地域会—支部の委員会に翻弄されている」という意見があり、委員会再編は県域地域会に位置付けを踏まえて考える必要があることも明示されました。幹事からは「職能団体として活動しやすい環境を整えられる魅力ある団体を幹事会では目指したい」と再編へのひとつの主旨が明示されました。



説明される藤沼支部長

最後に「県域地域会との連携も視野に

入れ少人数・少予算・事務局負担軽減・活動を効率よく活発化していきたい」と藤沼支部長より総括があり、委員会サミットは閉会いたしました。

今回、課題と目標は見えてきましたが、強い思いで共有できる再編主旨が見出されなかった気がします。そんな中、法人協力会員からの「発足時にあった強い協会が取り戻せれば会員が増える。私はそこを一番期待したい」の一言が心に残りました。



3部 AG パーティー

会場：JIA館1階建築家クラブ

メイン・シンポジウムの余韻をそのままに「7.7 AGメインイベント」最後を締めくくるのはAGパーティー。スペインvs日本と銘打ち、スペインサイドとしてワイン、JIAのパーティーではお馴染みとなっている生ハムの原木をカットしてのサービス、他にも肉料理やパエリアなどを準備、片や日本サイドはご当地自慢として、支部全域の各県地域会推薦の酒の肴に、東京都内の酒蔵の日本酒数種類を取り揃えました。

シンポジウム登壇者にも参加いただき、前半はシンポジウムの熱気そのままに熱い議論が各所で交わされていました。



シンポジウムの余韻そのままにパーティーがスタート

そして今年度のパーティーいちばんの盛り上がりは、なんといっても建築家バンド (URBAND) による生ライブ。想い出の渚に始まり、襟裳岬のAGバージョン、キャロル・キング、ビートルズまで皆が自然と体を動かし、一緒に歌を口ずさむような素晴らしいライブでした。

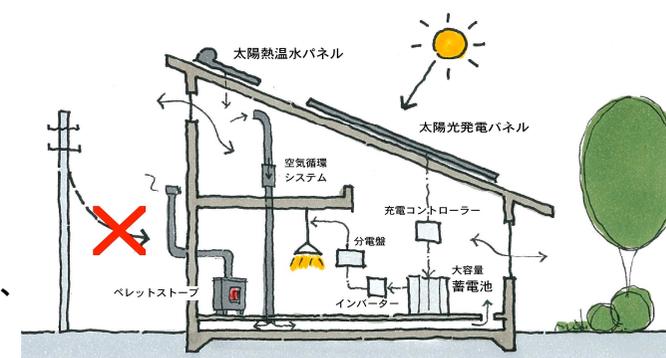
楽しいひと時はあっという間に過ぎ、最後は皆さんの温かい拍手により、歴史あるAGメインイベントの幕を下ろしました。



URBANDによる生ライブ

日時：2017年5月13日(土)
 第一部 10:00~12:30 / 第二部 14:00~16:30
 場所：えねこや六曜舎(東京都調布市深大寺北町)
 講師：湯浅剛・寺尾信子・長井淳一(支部環境委員会)

オフグリッドとは、電力会社の送電網につながらない独立した電力自給システムのこと。太陽のエネルギーによる発電・蓄電・集熱、木質バイオマスによる暖房、非常時に使える手掘りの井戸など、我慢や特殊な暮らしを強いることなく、化石燃料に頼らない、自然エネルギーだけで心地良く、健やかに過ごせる、オフグリッドの小さな建築(事務所)の見学会です。



えねこや・コンセプトスケッチ

写真：大槻茂



えねこや六曜舎の東側外観と、屋根上の太陽光発電パネルと太陽熱温水器



国産材と珪藻土の室内空間



西側外観と煙突、井戸スペース

午前と午後に開催した見学会には、合計9名の方が参加。広報の期間が短かったせいか、JIA会員の参加者はいなかったものの、建築関係者から一般の方までさまざまな方にご参加いただくことができました。

建物全体、そして蓄電池などを見学していただいた後、住まいのエネルギー、一次エネルギーと電力、省エネ、オフグリッドの「えねこや六曜舎」のコンセプトや工事過程についてなどいろいろお話をさせていただきました。

参加者からも、たくさんの質問をいただき、オフグリッドや省エネ建築について、いろいろ活発な意見交換をすることができました。



無電力ペレットストーブ



18kWhの鉛蓄電池システム



アーキテクト・ガーデン2017

セミナー・講演会・シンポジウム

2017年度JIA杉並土曜学校 第1回

主催

JIA杉並

開催日時： 2017年5月20日(土) 11:00~16:00
開催場所： 杉並区立角川庭園・幻戯山房~すぎなみ詩歌館~
参加者数： 14名



旧角川源義邸(登録有形文化財) (右)

南方熊楠顕彰館設計コンペの話(左)
その人像にまつわる書物などを
曾根幸一氏と堀正人氏の対談形式で

実物の工事監理工程表を用いて
話す遠藤勝勸氏(右下)



爽やかな五月晴れの中、2017年度JIA杉並土曜学校 第1回を開催することができました。当日は5人のJIA杉並メンバーにより「私の1冊」と題してトークイベントを行いました。

角川書店の創業者である角川源義邸の教奇屋住宅を見学しながら貴重な本との出会いや自身の設計経験談を和やかな中、気軽な質問も交えて、楽しめました。

JIA杉並の若手会員候補が手伝ってくれたのは今後の活動に大きく前進できる機会になりました。より一層、活躍できる場を提供していきたいと思っております。

年間テーマ
『成熟するまちと建築』～使い続けるために～

2017年度 JIA 杉並土曜学校 第1回

建築の本を巡りながら、時をつなぐ
建築家の本棚 + トークイベント「私の一冊」

ベテラン建築家が語る

貴重本、珍本、古い建築雑誌など多数出品



●開催中は好きな時間に、自由に本を読むことができます

●講演可能な限り出しものがあるかもしれません

●ベテラン建築家と建築雑誌を鑑賞します

●旧角川建築部(登録有形文化財)を体感できます

2017年05月20日(土)
11:00~16:00
トークイベント「私の一冊」
14:00~(遠藤・新庄・曾根・林・昭)

会場: 杉並区立角川庭園・幻戯山房 ~すずなみ詩歌館~
参加費: 500円
定員: 50名
主催: (公社)日本建築家協会 関東甲信越支部 杉並地域会
後援: 杉並区・杉並建築会



角川庭園 (旧角川建築部) 建築文化1996年7月号掲載写真より

2017年度 JIA 杉並土曜学校 第1回

建築家の本棚 + トークイベント「私の一冊」

建築の本を巡りながら、時をつなぐ

角川庭園(旧角川建築部)について

日本文学研究者であり、角川書店の創立者である角川謙蔵の元自邸を2009年、杉並区が「幻戯山房(すずなみ詩歌館)」として開館。設計 加倉井昭美 施工 水沢工務店、昭和30年竣工の木造2階建て敷居繋ぎの住宅である。旧書庫は現在展示堂となっている



角川邸 平蔵 建築文化1996年10月号掲載

■ 出版建築家
遠藤宗樹
1934年東京生まれ、早稲田大学工業高等学校卒業後、専修大学建築事務所入所。「東光園」「高松区立図書館」「久保米所庁舎」など数回にわたる作品を担当、94年から遠藤建築設計室代表

■ 新庄宗昭
1943年京都生まれ、東海大学建築学科、藤田組設計部入社。万博お祭り広場設計などを経て1971年、都市科学研究所(京都)入所。都市計画、都市設計、建築設計など実践を通じて広範囲に学ぶ、1984年独立、A&A都市デザイン研究所(AUD)を主宰

■ 曾根幸一
東京芸術大学建築科、東京大学大学院修士課程修了、都市工助手在籍中に丹下研のプロジェクトに係る。代々木体育館から一太郎万博1970の会場計画を契機に、環境設計研究所を設立。以来43年コンパニに専ら来てて道社。現在、環境設計研究室代表、芝浦工業大学名誉教授

■ 林 昭男
1923年前橋生まれ、早稲田大学大学院修士課程修了後、武蔵工業大学建築学科助手、渡田周忠研究室、第一工務店に参加。主として大坂万博1970の会場計画を契機に、環境設計研究所を設立。以来43年コンパニに専ら来てて道社。現在、環境設計研究室代表、芝浦工業大学名誉教授

■ 堀 正人
1957年柏崎生まれ、東京芸術大学建築科、同大学大学院修士課程修了後、磯崎新アソシエイツに入社。1985年からパシセコへ。1991年、Hori & Okabe architects を開設。1995年南園後、ホリアーキテックに改称。1996年~2014年、多摩美術大学、工学院大学、日本大学工学部非常勤講師。現在、インザキ・アオキ アソシエイツ、JIA杉並地域会 副代表

■ コーディネーター
中村雅子
東京生まれ、インテリアデザイン事務所(Casappo & Associates, Plastic Studio & Associates)を経て20歳で独立。Barcelona (SPAN) 在住後、商業施設や住宅などの設計に専念する。現在、株式会社タジュール代表取締役、JIA杉並地域会 副代表

第2回(8月5日)
「東京女子大とその周辺の住環境を巡る」

第3回(11月11-12日)
「建築家といっしょにまちを歩こう」(一泊旅行)

第4回(2月17日)
「浜田山のまちを建築家と歩こう」 ※内容と日程は予定です

杉並区立角川庭園・幻戯山房 ~すずなみ詩歌館~
杉並区萩原3-14-22 TEL:03-6795-6855
JR中央線 萩原駅 南口 徒歩15分
関東バス(表51)「シャレル」萩原行 「精華ホームおぎさば築前」下車 徒歩3分

JIA杉並地域会
《申込方法》 参加希望の方は件名を「JIA杉並土曜学校申込」とし、お名前、所属、人数、メールアドレス、電話番号、お住まいの地域(例:杉並区など)を明記の上お申し込み下さい
e-mail: suginami@jia-kanto.org
※申込は事前申し込みが必要で、定員になり次第締め切らせていただきます
《お問い合わせ先》 JIA杉並土曜学校担当(株式会社タジュール内 中村)
TEL:03-5305-2773 FAX:03-5305-2774 http://www.jia-kanto.org/suginami/



日本の民家について語る林昭男氏(上)
タコマ吊橋について語る新庄宗昭氏(下)



開催日時: 2017年7月2日(日)
 開催場所: 世田谷区池尻～北沢
 参加者数: 40名(一般18名、地域会会員8名、講師14名)

世田谷区内には86の地域風景資産が選定され、
 風景づくり団体によって次世代に伝える風景づくり活動が行われている。
 世田谷区のこの独特のまちづくりを広く知ってもらうために、本年度の
 AGでは世田谷区内、池尻から北沢までにある8の地域風景資産を訪れ
 風景づくり団体から風景づくりの説明を聞いた。

8の地域風景資産とは次のとおりである。

- 1 池尻稲荷神社を中心とする旧大山道
- 2 登録有形文化財の萩原邸
- 3 せせらぎと絵陶板のある烏山川緑道
- 4 大ケヤキのある円泉ヶ丘公園
- 5 三宿の森緑地
- 6 代沢せせらぎ公園と北沢川緑道
- 7 代田の丘の61号鉄塔
- 8 北沢地域に隠れている石造物群～茶沢通り(旧二子道) 界隈～



池尻稲荷の本殿と神楽殿を背に活動人が街と道の歴史を語る



緑道になった烏山川の上で活動人が話すのは街づくりの歴史



遠藤新設計の登録文化財の萩原邸



国立小児病院の跡地に作られた円泉ヶ丘公園に活動人の解説も熱を帯びて



こちらは法務省の研修所の跡地
 緑がいっぱいで住民運動も成果がよく見えて
 やりがいを感じる



代田の丘の61号鉄塔は日本で一番高い
 萩原朔太郎の文学碑である

開催日時: 2017年7月1日(土) 14:00～15:30
 開催場所: リビングデザインセンター7F OZONE 住まうとサロン
 参加者数: 一般受講者8名

今回のセミナーは、対話形式で、コーディネーターが家づくりの本音を引き出すことを念頭に進めました。

建築家セミナーにありがちな、作品紹介にならないように、徹底して対話し続けて、素の建築家が見せる新しい挑戦は、受講者にとっても、手応え充分でした。

内容は、四つのテーマについて、建築家それぞれの考えている意見を話し合っていきます。答えを求めめるのではなく、多種多様な意見があることを知ってもらい、またその中でも、共通した建築家の姿勢をみてとれるように心掛けました。

- 周辺環境、敷地、人となり
- 建主との対話
- 建築家の持つ普遍的な価値観や視点
- 魅力ある家づくり

最終的には、愛着を持って長く住み続けるヒントを聞き出し、建築家それぞれの素顔を受講者に見てもらえたと思います。

ビジュアルの写真が数枚程度という、思い切った構成で臨みましたが、受講者の反応は上々で、今後も対話形式を続けていく事が、わかりやすいセミナーとして、進化させていきたいと思えます。

記: コーディネーター 中澤克秀(中澤建築設計事務所)
 講師 関本竜太:(リオタデザイン) : 宮島 亨 (V建築設計室)



開催日時: 2017年6月30日(金)
 開催場所: JIA館1階建築家クラブ
 参加者数: 25名

JIA再生部会の公開イベントとして、部会メンバーが実際に設計監理に関わった既存建物の保存再生事例についてセミナーが行われました。副部会長の大橋氏、鰐坂氏からそれぞれのテーマについて話題提供があり、一般参加者も興味関心を持って耳を傾けていました。

①記憶をつなぐ幼稚園

～林雅子設計の幼稚園の再生と改修～

／大橋智子(再生部会副会長)

林雅子設計のまんとみ幼稚園は、亀戸に1968年に第1期工事、1972年に第2期工事が行われた建物で、竣工後約45年以上が経過しています。しかし、大通りに面して建物を配置し落ち着いた中庭や、前面道路とのレベル差を利用して設けられた子ども用滑り台など、空間的な魅力あふれる現役の幼稚園です。建てられた当時は、「自由保育実践の幼稚園」として、メディアにも取り上げられ、その建築空間もまた、教育理念を実現した建物として高い評価を得ていました。

こうした名建築を、時代を経て、様々な機能更新や増築が必要になった場合に、我々はどのように対処すべきなのでしょうか。先達の計画理念を継承しつつ、技術的、法的な課題に対してアプローチする方法は、それぞれの事例によって異なります。

大橋氏は、この事例において、計画当初の実施設計図を丁寧に読み解きながら、安全確保のために耐震補強を行い、竣工後に加えられた柱やエアコン室外機を撤去し、もともとの設計理念に近い形で建物を再現させました。薄暗いトイレをガラスブロック

を活用して明るく改修したり、既存の構造に負荷をかけずに膜屋根を設置して半屋外空間を設けたり等、建て主の要望にもひとつひとつ答えています。建て主の増築要望に対しても原設計の意図を組んで、街路沿いに高さを抑えた軒線を大事に守るよう配置しました。

先達の設計理念を継承しつつ、新たな機能や空間を更新する保存再生手法の一つとして見本となる事例と思われます。

②近現代建築の保存再生事例を考える

～竣工時からのオーセンティシティと改築による

オーセンティシティについて～

／鰐坂徹(再生部会副会長)

鰐坂氏は、鹿児島大学教授という立場から、昨年2016年4月に起きた熊本地震による熊本の復興状況や取り壊しの危機にある近代建築物、また、パリの日本文化会館で行われている「坂倉順三 人間のための建築」展など、幅広いお話をされました。

特に、熊本市役所花畑別館については、日本で唯一現存する機能主義デザインの前戦通信建築として、設備と構造が一体化した機能的なデザインなど、その保存すべき文化的、空間的価値をわかりやすく解説。熊本市役所花畑別館は、もともと1936年に建てられた通信建築の東京中央郵便局、大阪中央郵便局と同時代同価値の建築です。どちらも郵政民営化の波の中、大部分が解体されてしまいました。この建物の価値はまだ一般的に理解されていませんが、同様の機能主義デザインであるバウハウス(1926年)やファンネル工場(1929年)がすでに世界

遺産に登録されていることを考えると、非常に価値の高い建築と考えられます。残念ながら、解体の方針にあるものの、熊本市は解体前に建物調査と報告書を作成することは約束しました。近現代建築の優れた設計理念や空間作法は、一つの歴史的な文化遺産として、少なくとも記録しアーカイブ化して、後世に残すべきと考えています。



まんとみ幼稚園の増築された膜屋根



聴衆を前に語る鰐坂氏

開催日時: 6月27日(火)
 開催場所: 建築家会館本館1階ホール(渋谷区神宮前2-3-16)
 参加者数: 40名

6月27日(火)アメリカ広葉樹日米建築家懇談会が建築家会館・大ホールにて行われました。

講演(1)「家族の居場所と奥への試み」は、日本側の代表として僕が手がけた2つの作品を通して住宅に「奥」をつくりだすことを南入りの特殊性に關係して述べてみました。このことに関しましては、敬愛する渡辺武信さんが「奥」を最も緊急に必要としているのは、私なりの表現で「私性の砦」である住宅に他ならないことは明らかだと述べております。

講演(2)「建築材料への畏敬」は、James Cutler氏の講演となり、師ルイス・カーンの話から文化的環境についてのリスペクトされた深い思考を述べられました。また森の中に素材のもつポテンシャルを大切にされガラス越しに室内外を繋げていく作品の環境とのハーモニーの美しさに魅了されました。

パネルディスカッションはJames Cutler、吉本大史、湯浅剛、僕の4名がアメリカ広葉樹輸出協会の辻隆洋氏の進行にて

- 1) 米国と日本の建築家の環境建築への取り組み
- 2) 米国と日本の建築家の木質内装材利用に対する考え方
- 3) 日本の建築家に対するアメリカ広葉樹を含む木材製品の情報提供の方法等を話し合い環境への配慮や持続可能な社会へ向けて活発な意見交換となりました。

その後、建築家倶楽部にてレセプションが始まり和やかな交流の場となりました。挨拶での僕のスピーチを掲載させていただき報告とさせていただきます。

Hello, everyone and welcome.

During the seminar we discussed many issues facing architects on both sides of the Pacific. Your input and ideas will hopefully transform into real-life applications enabling us to better the environment and communities we serve.

As we come to the close of this seminar, it is important for us to remember that a society focused on the environment and sustainability is a society guaranteed to prosper.

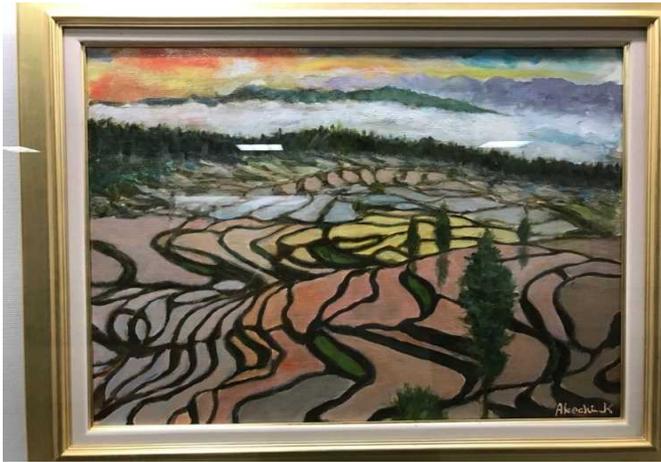
Thank you all very much.

日本建築家協会関東甲信越支部住宅部会長 片倉隆幸



日時： 2017年6月24日(土)～7月8日(土)2週間
 場所： 銀座プロムナードギャラリー(銀座と東銀座間の地下道)
 参加者： 出展「ミケランジェロ会」会員14名 見学：銀座地下道を通る方々

銀座地下道を通る多くの方が眼にできる場所が「銀座プロムナードギャラリー」。2週間の展示を行いました。「ミケランジェロ会」が絵画(水彩、油彩)、写真、書等の展示を行い、建築家協会をアピールしました。今年には14会員が52作品を展示しました。国内・海外の風景画が最も多く出品されました。昨年秋のスケッチ会は築地本願寺、聖路加病院、勝鬃橋などのスケッチを行い、今春には上野公園近辺で東京文化会館(前川國男設計)、国立西洋美術館(世界遺産ル・コルビジエ設計)などを題材にスケッチしました。



元陽の棚田：明智克夫



伊パエストウム／ネプトゥヌスの宮殿：今井陸之

開催日時： 2017年6月24日
開催場所： 九段下集合 北の丸公園と周辺
参加者数： 20名

北の丸公園とその周辺には歴史遺産、特に戦争に係る歴史遺産が数多くあります。

今回千代田景観まちあるきは、華やかさはありませんが、歴史を伝える上で大切な歴史遺産・戦争遺産の建築を巡るまち歩きを企画しました。

当日は梅雨の合間の過ごしやすい曇り空の下、一般市民参加者11名、JIA会員3名、千代田地域会6名、合計20名が九段下昭和館ピロティ（菊竹請訓設計）に集まりました。

九段会館（旧軍人会館）→江戸城清水門から北の丸公園に入り、公園内の石碑を辿りながらその広さを実感してもらいました。

北の丸公園→「東京国立近代美術館工芸館」（旧近衛師団司令部庁舎）→濠の対岸高射機関砲台座跡→千鳥ヶ淵戦没者墓苑（谷口吉郎設計）を見学、最後に靖国神社諸施設を見ながら靖国神社茶室の外観を見学しました。

メインとなる「近衛歩兵連隊兵営」の建物は現在「東京国立近代美術館工芸館」になっている「旧近衛師団司令部庁舎」を残し建物は失われ、北の丸公園になっています。

当時をイメージするために予め参加者に写真や地図を資料として配付して目を通してもらったため、当日の解説がより理解しやすかったようです。

都心の身近な場所でありながら、案外知られていない歴史遺産が多く、参加者も最後まで満足頂ける企画となりました。

終了後行った懇親会でも更に質問が出るなど話が弾みました。

（JIA千代田地域会 大橋智子）



九段会館



高射機関砲台跡



千鳥が淵

開催日時:2017年6月10日(土)
開催場所:品川駅から目黒駅
参加者数:21名

4カ所の大名屋敷跡を案内人岡田哲志とともに歩く。案内人は東京の都市形成史が専門、またまち歩きの達人でもある。

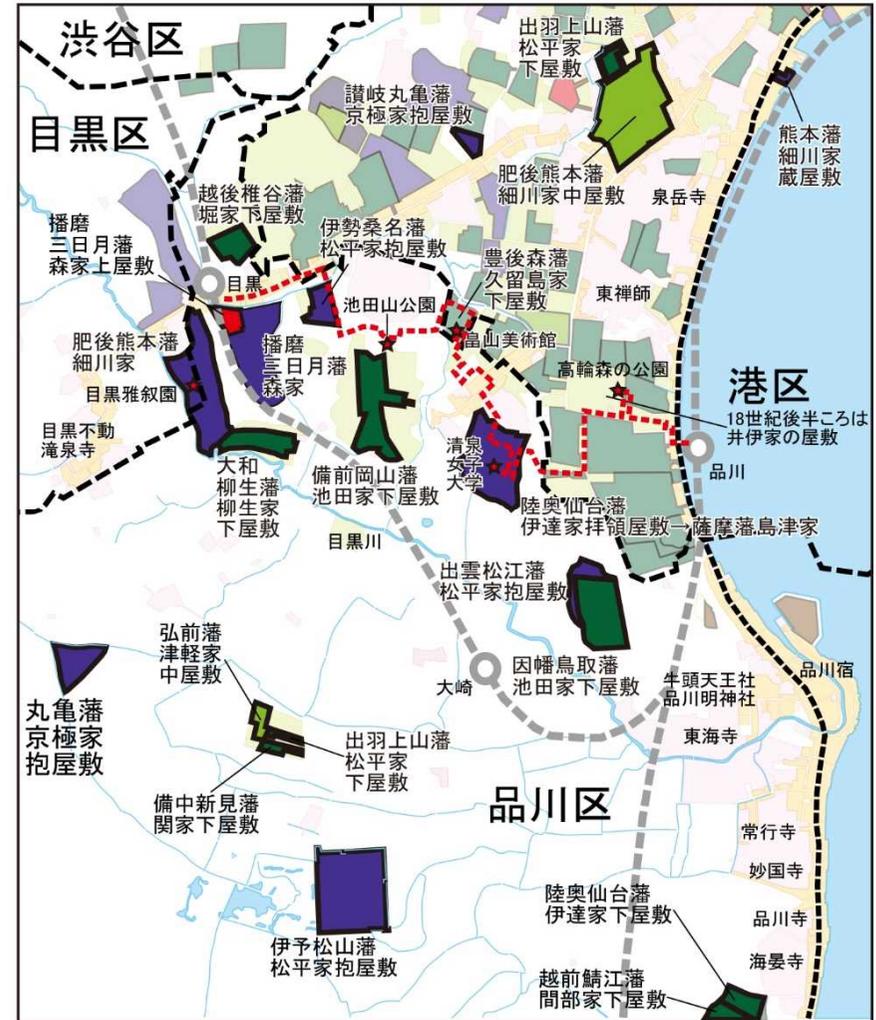
最初に目指すは「高輪の森公園」。品川駅からシナガワグース（旧パシフィックホテル）横の坂を歩き右手に曲がりしばらくすると深い緑の公園が見えてくる。江戸時代薩摩藩島津家の下屋敷・抱屋敷、18世紀後半には井伊家の屋敷であったようだ。明治時代に入り政治家後藤象二郎の屋敷となりその後宮家の邸宅として使われた、とある。隣接する新高輪プリンスも屋敷内に含まれたと思われるが、現在の公園内には小高い丘の緑地があり滝・流路などの庭園遺構が残される。

次に清泉女子大に向かう。新高輪プリンスホテル前の坂を上ると高輪台地の稜線となり、その稜線を南に進む。榎さん設計の住宅などが並ぶ住宅地を抜け西方向に進み谷地近くになると向こうの斜面緑地上に清泉女子大本館の屋根が見えてくる。谷地を抜けるルートは、案内人ならではの路地・階段アリのコース。

「清泉女子大」の敷地は、江戸時代、陸奥仙台藩の伊達家下屋敷であったが、明治になり旧薩摩藩島津公爵家の屋敷となった。旧島津家袖ヶ崎本邸洋館としてJ.コンドルの設計により建てられ、現在清泉女子大本館として利用されている。煉瓦造2階建の建物で、スレート葺の屋根、列柱廊のバルコニーなど古典様式基調の外観となっている。居住時は1階が公的なエリア、2階は私的なエリアとして使われていた。清泉女子大の敷地は崖地上の高台に、また周囲の住宅地は北側を除き低地にあるため、同大の緑地と建物が景観面で大きな要素となっている。次の畠山記念館へは、谷地側から桜田通りを抜けて向かう。

「畠山記念館」は、昭和初期まで旧寺島伯爵邸（江戸時代は旧豊後森藩久留島家下屋敷）であった敷地を荏原製作所創業者の畠山家が購入し、また同美術館は創業者が収集した古美術品を展示公開する私立の美術館で、明月軒などの茶室、園庭が残る。北側に隣接する広い敷地の御殿「白金テラス」もかつては畠山家私邸「般若苑」敷地の一部のようなのだ。

白金テラス裏側の路地上の道を抜け急な坂を下り、池田山公園に向かう。「池田山公園」は旧備前岡山藩池田家下屋敷であった敷地。高台にあり池田山と呼ばれる。明治時代は池田公爵邸として使用されるが、大正末期頃から宅地化が進み庭園部のみが残る。現在は品川区の公園として整備され、回遊式庭園が良好に保存されている。



「江戸後期の大名屋敷の位置、岡本哲志氏提供」

今回の大名屋敷跡をたどり感じたことは、高輪から目黒にかけて台地・谷地の起伏の変化が思った以上に多いこと、城南地区に残る大名屋敷は下屋敷が多く藩主家族の別邸としてあるいは遊興の場所として使われたようで、そのためか台地の上の展望の良い立地にある。この台地に残る屋敷跡のまとまった緑・施設が、現在においても当地区まちづくりの上で、公共施設整備あるいは景観面からも大きな役割を果たしている。

開催日時: 2017年6月7日(水) 8:00~18:30

開催場所: 静岡県沼津市・三島市

参加者数: 42名(区民 31名/建築家協会(JIA)会員・中野地域会会員 5名/東京都建築士事務所協会(TAAF)中野支部会員 6名)

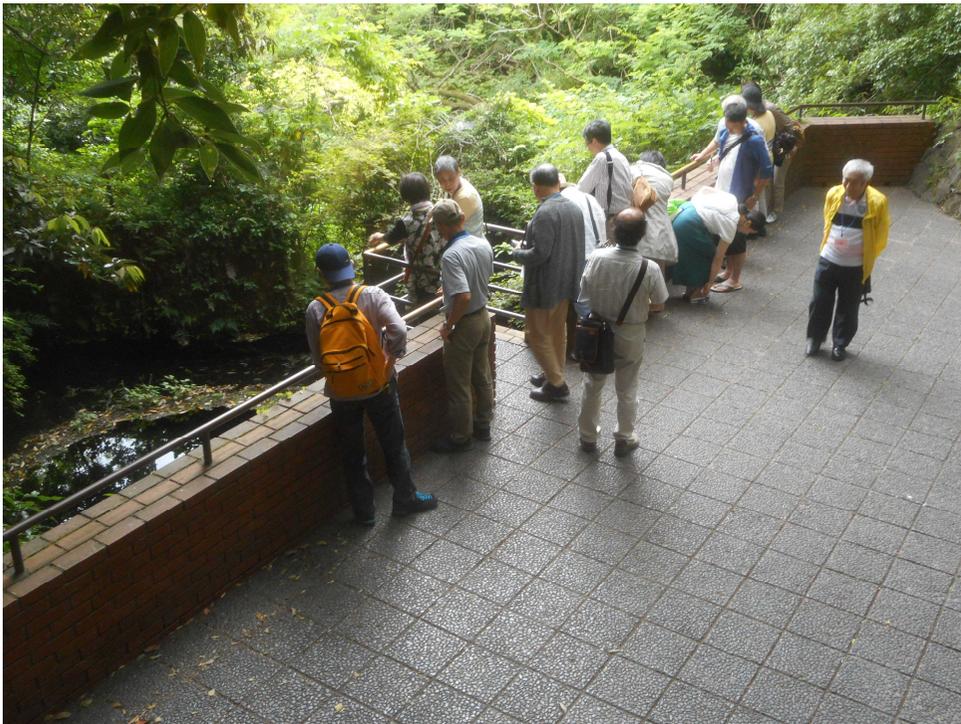
恒例のバスツアーである。一般区民のレピーターも多い。中野区役所西側に7:45集合、8:00バス出発。

渋滞で東京を出るまで予定よりも時間が掛かる。

黒川紀章建築都市設計事務所による足柄サービスエリアで休憩し、千本松原の若山牧水記念館を見学、昼食を沼津魚市場食堂でとり、「東洋一の湧水」、一日約100万トンわき出すという柿田川湧水群見て、若林広幸建築研究所によるLaLaGOTENBAを見学。

午前中の渋滞による遅れのためクレマチスの丘にある。

菊竹清訓建築設計事務所による井上文学館及びベルナール・ビュッフェ美術館は残念ながら省略することになってしまったが、代わりに旧沼津御用邸を見て、中野区役所西側にほぼ予定時間に帰着して解散。



柿田川湧水群



旧沼津御用邸

開催日時: 2017年 6月3日 13:30~17:00
 開催場所: 長野県南佐久郡小海町 南佐久中部森林組合、北相木村、南相木村
 参加者数: 正会員8名 法人協力会員4名

長野地域会では県内各地の山の現状を視察するフィールドワークを続けています。
 今回は小海町の南佐久中部森林組合と、群馬県に接する北相木村・南相木村で特産の信州唐松について見学しました。

はじめに南佐久中部森林組合で、組合の概要や事業内容のお話を伺いました。技能職員21名の平均年齢が32歳と若く、管轄する小海町、北相木村、南相木村の面積に対する森林の割合は86.3%、管内民有林の人口林率は70%で、そのうち93%が唐松林。間伐材の有効利用にも取り組んでいます。

次に北相木村に移動し、山に入り作業の様子を見学しました。特殊な重機を操り女性も活躍していました。その後、南相木村では、法人協力会員の小林木材(株)が材料を納めた建築中の住宅を見学しました。土台、梁、柱と全ての構造材が相木産の唐松で、その美しさに驚きました。相木村の長くてまっすぐな唐松、組合の丁寧な造材、小林木材(株)の手間暇かけた自然乾燥と加工技術、大工さんの拘り、その全てが合わさって価値ある製品になっていると思いました。今回は参加者が少なくて残念でしたが、今後も県内各地で地域材フィールドワークを続けて行きます。





アーキテクト・ガーデン2017

セミナー・講演会・シンポジウム

第26回東京都学生卒業設計コンクール

主催

学生デザイン実行委員会

開催日時: 5/27~28
開催場所: 工学院大学新宿キャンパス
参加者数: 300名

5月27日、工学院大学新宿キャンパスアトリウムを会場に第26回JIA東京都学生卒業設計コンクールが開催されました。
今年は東京都内にある23大学と、初めての試みとなる2専門学校から推薦を受けた合計53作品を対象とし、審査が行われました。

今回の審査には審査委員長に富永譲氏、副審査委員長に城戸崎和佐氏、審査委員に江尻泰憲氏、永山祐子氏、羽鳥達也氏にお願いし、様々な視点からの講評をいただきました。
来場者も二日合計で約300名近くへのぼり、たくさんの方に学生の今をお伝えする事ができたと思っております。



JIA関東甲信越支部・住宅部会 OZONE 「JIA建築家と考える暮らしと住まい」

「人と環境に優しい住宅とは？」

～少ないエネルギーでも気持ちよく暮らせる住まい～

日時：2017年5月20日(土) 14:00～15:30

場所：リビングデザインセンターOZONE 7F 住まうとサロン

講師：大川直治(大川建築都市設計研究所) / 落合雄二(U設計室)
コーディネーター：湯浅剛(アトリエ六曜舎)

参加者：6名(一般参加)

太陽・風・緑など、自然エネルギーを最大限活用し、なるべく枯渇エネルギーに頼らず、効率よく省エネが実現できる住まい。再生可能で環境負荷の少ない、木材や土、紙などの自然素材を活用した、肌触りが良く、経年変化を楽しめる住まい。適正な温熱環境により、住まい手が気持ちよく健康的に、そして自分たちらしい暮らしを実現できる住まい。自然と共存し、愛着を持って長く住み継いでゆける豊かな住まいについて、ご紹介いたしました。



[実例-1]蔵前の家 (設計:大川都市建築設計研究所)



[実例-2]目白の家 (設計:U設計室)

高い耐震性能、耐火性能、優れた意匠、スムーズな動線計画や十分な収納。これらも家づくりには大事な要素ですが、快適な温度や湿度を維持できる建物性能、安全な自然素材で構成された温かみのある室内、明るく風通しの良い、自然を感じさせる空間など、やや見えにくい「心地よさ」への配慮が、「人に優しい住まい」を実現します。

また再生可能な自然素材の採用や、施工・運搬方法への配慮、住み始めてからの高い省エネルギー性能、再生可能(自然)エネルギーの活用、メンテナンス性への配慮などが、サステナブル(持続可能)な「環境に優しい住まい」には必要です。

次の3つのテーマを通して、愛着の持てる「人と環境に優しい住まい」の実現についてお話ししました。

- 少ないエネルギーでも気持ちよく健康的に暮らす
- 自然素材の活用とサステナブルな住まい
- 住まいの手の暮らしに寄り添うデザイン

[実例-1 都市部の住まい]

都市部の住宅は、敷地が狭く、周囲に建物が建て込んでいて、プライバシー確保さえままならないことも少なくありません。そのような場合でも、まずは敷地条件をより正確に読み込んで、どこから光や風を取り込めるか、どこに開いてどこを閉じるべきか、より細かく判断していくことが大切です。また近隣建物の影響が大きいので、住まい手のライフサイクルだけでなく、近隣建物のサイクルを時間軸として捉え、シミュレーションしておくことも必要だというお話しをしました。

[実例-2 自然素材を活用した住まい]

自然素材は、肌触りが良く、経年変化で古びる良さを楽しむことができます。また調湿作用があり、住まい手の心地よさにも効果があります。加えて、再生可能なものが多く、製造時のエネルギーが小さいことや、廃棄時に環境負荷が小さい(=土に戻る)ことなどから、環境にも優しい素材と言えます。反面、傷がつきやすく、屋外に使うと朽ちていくという問題もあるため、しっかりと長所・短所を理解した上で活用することが望ましいです。

[まとめ]

建物の数値だけで、その住まいの「心地よさ」は判断できません。逆に性能を疎かにしても、気持ちのよい暮らしは実現できません。住む人によってバランスの取り方は異なりますが、まずは敷地のポテンシャルを最大限引き出し、自然エネルギーを上手に活用し、一定の建物性能を確保した上で、住まい手の暮らしに寄り添うデザイン、素材の選定を行うこと、これによりはじめて「人と環境に優しい住まい」が実現できるのです。